

児童発達支援ガイドラインによる自己評価について

2022年 1月

ハート亀沢

児童発達支援の質の向上と支援内容の適正化を図る為、
児童発達支援に基づき実施した自己評価の結果を公表致します。

回収率：保護者69%（22名/32名：回収数/配布数）

＜調査からの読み取り・改善点＞

	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	「活動スペースが十分に確保されているか」の項目では、多数の方からは「はい」との回答を頂いているが、児童一人ひとりの体格差もあり仕方のない事だが少し狭そうに感じるのもう少しスペースがあったら良い。という意見もあった。 職員の配置数や専門性が適切であるかについては不明との意見が多かった。	活動内容により使用するテーブルなどの配置を考え、なるべくスペースを確保できるよう工夫していく。 定期的に職員研修やミーティングを行い、職員の統一性・専門性を図っていく。
適切な支援の提供	「固定化しない活動プログラムの工夫がされているか」の項目では参加型のイベントなどで楽しみながら参加出来たり、職員の手を少し借りながら1つの物を作り上げる事が出来るような企画をして下さっています。と好評の意見ももらった。 「放課後児童クラブや児童館等の交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか」の項目では不明との回答が多い中で感染症拡大などに伴い現状は難しいので仕方がない。との意見もあった。	活動プログラムに関しては児童一人ひとりが楽しめるように参加型の調理や創作活動、お出かけなどの様々なイベントを用意し、開催できるようにしていく。 障害のない子供との交流は、感染症拡大などの影響もあり現在は行えていないが状況を見ながら検討していきたい。
保護者への説明等	「日頃から子どもの状態を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解できているか」「子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の配慮がなされている」の回答では「連絡帳や送迎時などでその日の様子を伝えて頂いている」などの意見もあり、ほぼ全員「はい」と回答頂いている。保護者同士の連携に関する項目は、他の保護者と関わる機会が欲しいという意見があったが、必要は感じないという意見もあった。	連絡帳や送迎時の保護者との会話を心掛け、支援の統一性や質の向上に努めてきた為、満足いただけているので継続していく。定期的に面談の機会を設けている。
非常時等の対応	「避難訓練・防犯・感染症マニュアルの周知・説明がされているか」については「はい」との回答が多数ある中で「分からない」との回答も数名あった。 「非常災害の発生に備え、定期的に避難・救出その他必要な訓練が行われているか」の項目については、ほぼ全員が「はい」と回答頂いている。	水害・災害・感染症マニュアルについて面談時に改めて説明し認知率を高めていく。また新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症に対しての予防対策、手洗い・換気・消毒等を実施していく。 各災害項目別に避難訓練を行うなど、各場面に対応できるような準備をしていく。
満足度	「子どもは通所を楽しみにしているか」「事業所の支援に満足しているか」では、ほぼ全員より「はい」と回答をいただいた。特に自宅では食べない物や苦手な物を食べられるようになったり、他のお友達との関わりを以前より持つことができるようになったと喜びの声を頂いた。	満足との回答を多数頂くことが出来たので今後も、満足度が低下しないように、サービスの質の向上を図っていく。 児童が一人でも多く楽しく過ごせるよう、活動内容も工夫しながら計画を立てていく。